

第9回栄村復興推進委員会次第

日時:平成27年7月21日(火)

午後3時00分から

場所:栄村役場議場

1 開 会

2 村長あいさつ

3 委員長あいさつ

4 議 事

1) 森宮野原駅前複合施設について

① 施設の概要について

② 震災復興祈念館について

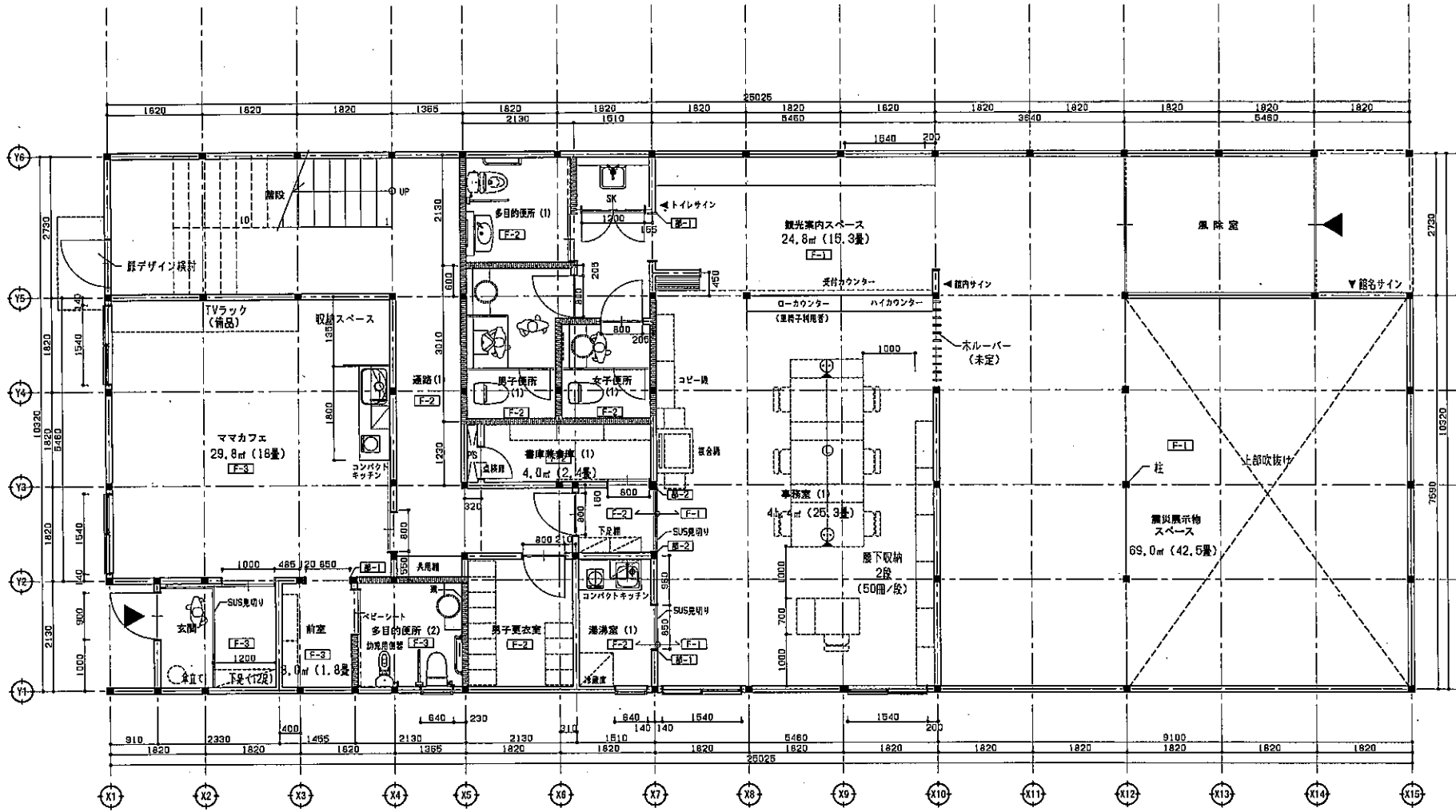
③ 観光案内所と商店街活性化ビジョンについて

④ 子育て支援ルームについて

5 その他

6 閉 会





森複合施設 震災復興祈念館（仮称）展示計画案

平成27年 7月



施設コンセプト

● 地震災害の体験から学ぶ、防災学習の場

- ・ 甚大な被害を被りながら、復旧、復興へと歩み続ける栄村の姿を伝えます。
- ・ 震災体験を通じて得た貴重な教訓を、未来へつなぐための防災学習拠点として位置づけます。

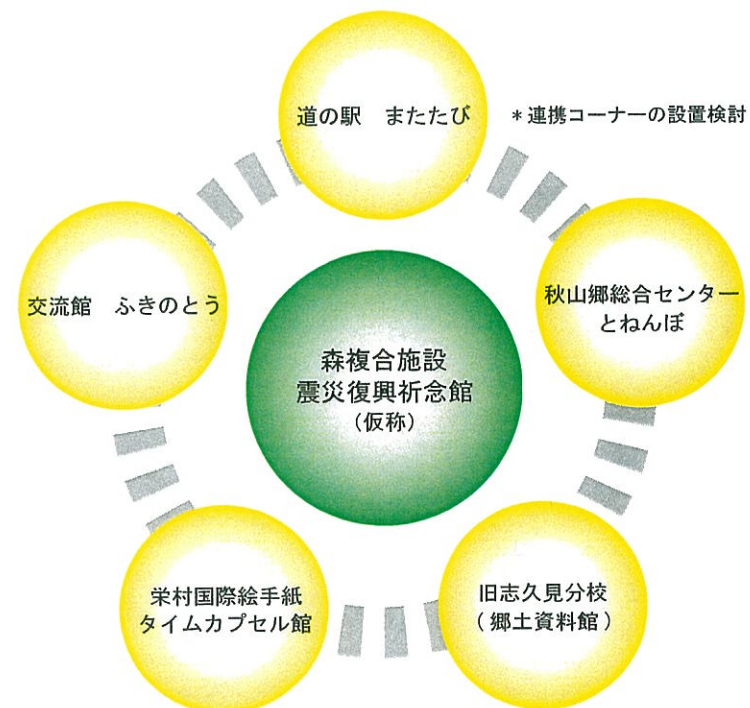
● 自然や伝統文化、ここに暮らす人々の魅力を伝える交流の場

- ・ 地域の歴史文化、観光情報などを提供し、栄村の魅力へいざないます。
- ・ 苗場山麓ジオパーク周辺情報の発信や、ジオパーク活動を推進します。

展示計画にあたって

展示を計画するにあたり、どうすれば魅力的で楽しく学べる施設になるのかを来館者の視点に立ち、十分に検討することが大切です。

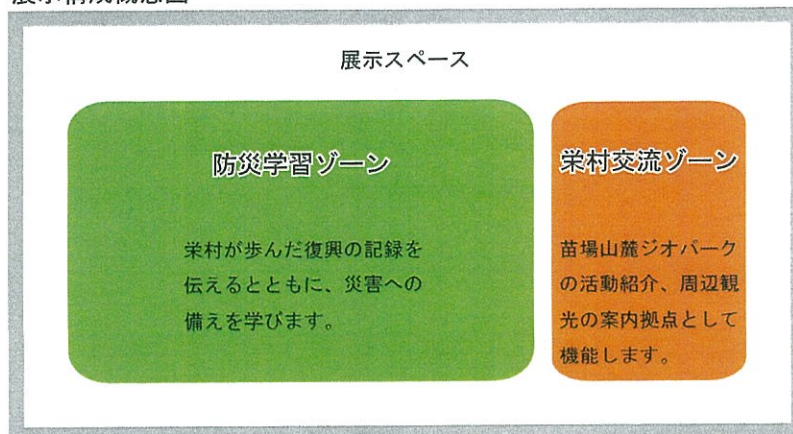
また、近隣の施設とも連携し、相互に情報発信ができる仕組みをつくることも重要です。



展示の基本方針

- 展示空間
 - ・ 伝える情報を最優先し、建築空間と融合した演出空間の創造を目指します。
- 展示構成
 - ・ 展示する内容を十分に訴求できるよう、わかりやすくなる展示構成とします。
- 展示展開
 - ・ 誰もが楽しみながら学び、リアルタイムな情報を得ることができる、印象に残る演出手法を検討します。

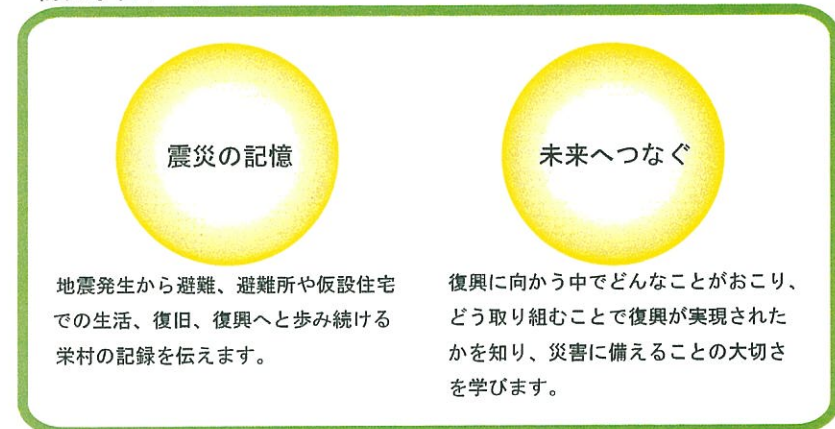
展示構成概念図



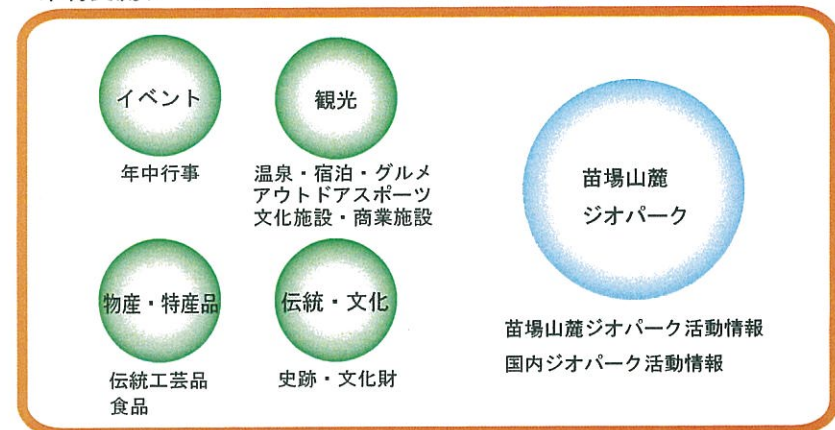
展示構成の考え方

展示スペースは「防災学習ゾーン」と「栄村交流ゾーン」で構成します。各ゾーンは、以下の要素でテーマ展開します。

防災学習ゾーン



栄村交流ゾーン



展示テーマ構成

（防災学習ゾーン）

A 記憶を残す

被災の状況と併せて、村民の協力により集まった震災関連の資料を、提供者の体験談とともに紹介し、記憶として伝えます。

B 復興をたどる

復興過程のなか、村が行った時々の取り組み手法と併せて、人々の生活や村の姿を伝えます。

C 震災を語りつぐ

震災に関わった人々が自身の体験を伝えます。また、災害への備えについて学びます。

（栄村交流ゾーン）

D 苗場山麓ジオパークガイド

防災学習の推進の場として、苗場山麓ジオパークの活動を紹介します。

E 栄村情報ガイド

栄村の魅力の様々を伝えます。

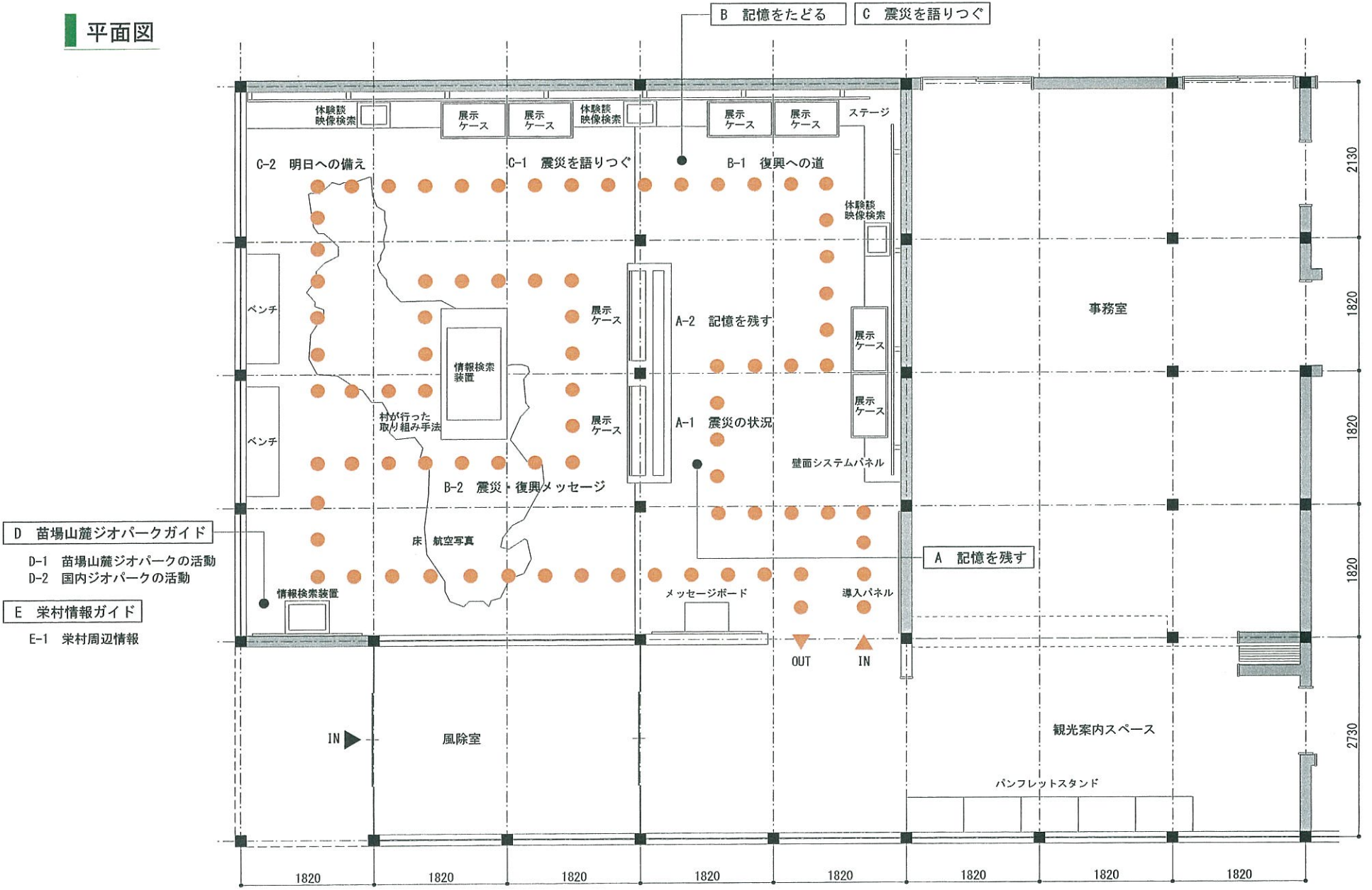
展示構成表

テーマ	項目	内容
（防災学習ゾーン） A 記憶を残す	A-1 被災の状況	A-1-1 地震の概要 A-1-2 被害の概要
	A-2 記憶を残す	A-2-1 被災時と現在の対比 A-2-2 被災の記録
B 復興をたどる	B-1 復興への道	B-1-1 地震発生当日 B-1-2 避難生活 B-1-3 復旧・復興への取り組み
	B-2 震災・復興メッセージ	B-2-1 全国から寄せられた支援 B-2-2 来館者からのメッセージ
C 震災を語りつぐ	C-1 震災を語りつぐ	C-1-1 震災に関わった人々の体験談（被災者・消防団員・ボランティアなどの方々） C-1-2 語り部の体験談
	C-2 明日への備え	C-2-1 わが身を守る家庭防災
（栄村交流ゾーン） D 苗場山麓ジオパークガイド	D-1 苗場山麓ジオパークの活動	D-1-1 苗場山麓ジオパークの活動状況
	D-2 国内ジオパークの活動	D-1-2 国内ジオパークの活動状況
E 栄村情報ガイド	E-1 栄村周辺情報	E-1-1 イベント
		E-1-2 観光
		E-1-3 物産・特産品
		E-1-4 伝統・文化

森複合施設 震災復興祈念館（仮称）展示計画案



平面図



D 苗場山麓ジオパークガイド

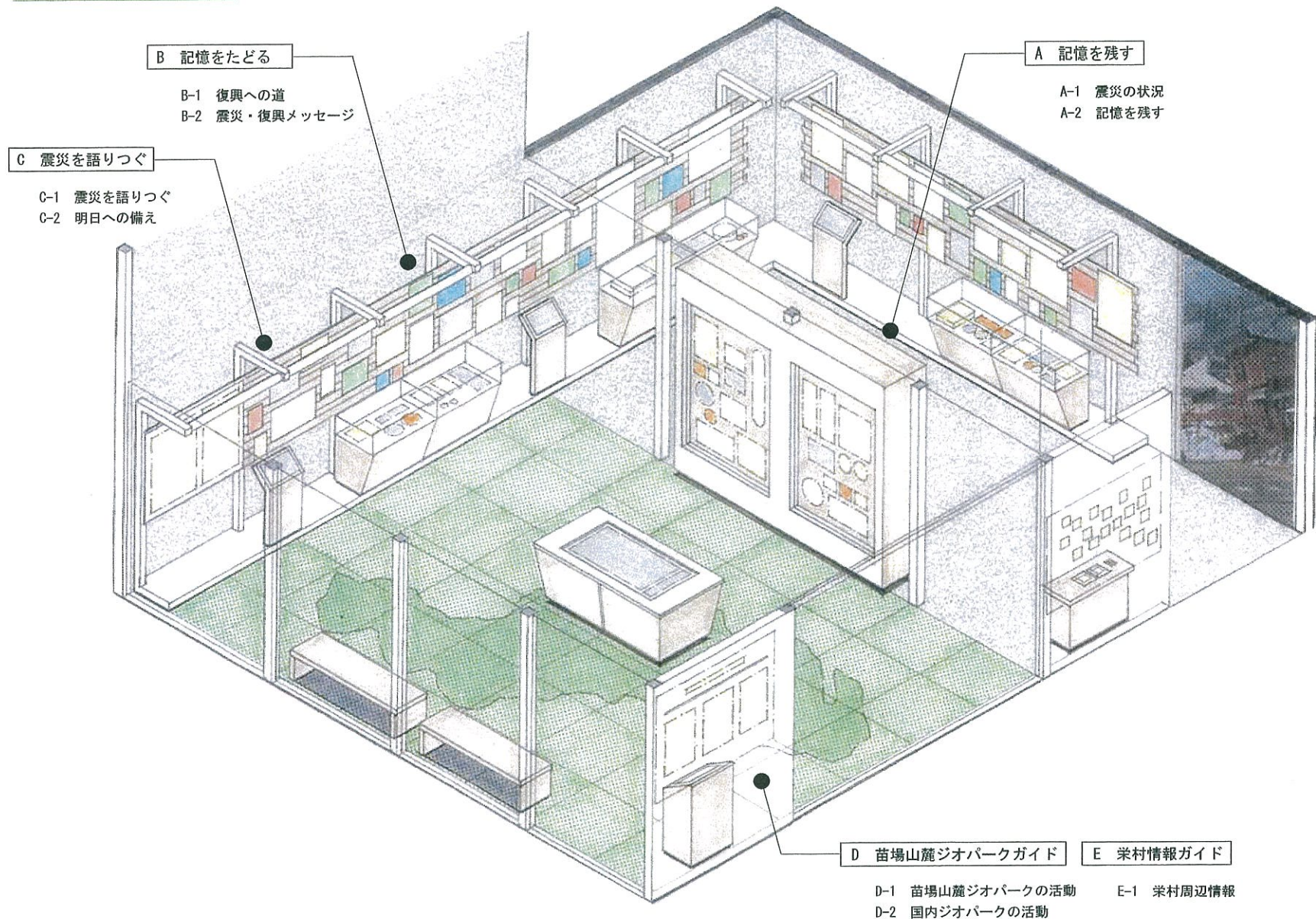
- D-1 苗場山麓ジオパークの活動
- D-2 国内ジオパークの活動

E 柴村情報ガイド

- E-1 柴村周辺情報

●●● 来館者動線

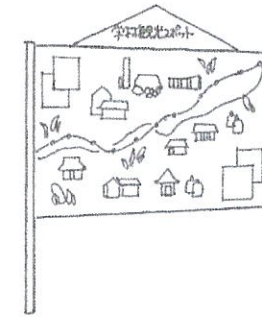
イメージスケッチ



道の駅またたびからの来館者誘導について

- ・ 屋外案内板、誘導サインの設置。
- ・ 2F 木工品展示コーナーを整備し、震災復興祈念館のサテライト展示スペースとして機能させ、震災復興祈念館への来館を促します。
- ・ 村内各施設と連携し、情報検索装置により相互の情報発信を行います。

屋外（駐車場・ロードサイド）



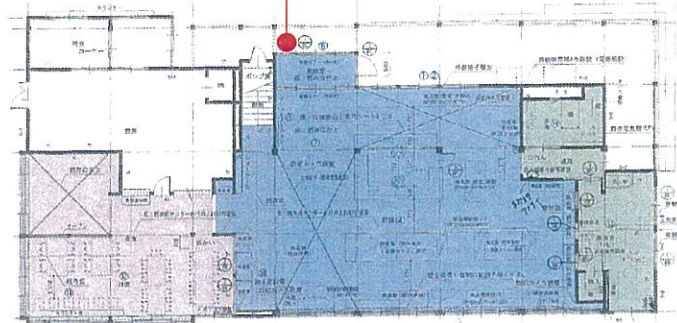
屋外案内板



誘導サイン

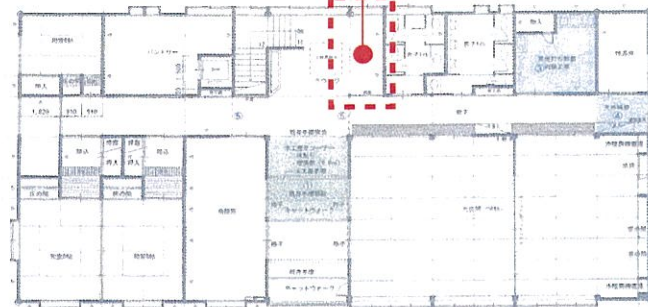


誘導サイン



1F 平面図

1F 入口付近



2F 平面図

2F 展示コーナー



震災関連情報
柴村周辺情報

情報検索装置

森宮野原駅前複合施設と商店街活性化ビジョン

栄村役場商工観光課

1 目標

交流人口増加による産業振興と商店街の活性化

2 基本方針

- ① 駅前に森商店街、商工会、公社、森宮交通旅行事業者、観光協会、行政（商工観光課）と連携した、さかえむら観光案内の拠点を設置
- ② 誰もが気軽に立ち寄れる仕組みづくり（道の駅信越さかえからの誘導含む）
- ③ 栄村の中心部に相応した賑わい空間の創出（飯山線の活用、イベント開催等）
- ④ 栄村の歴史、文化、伝統、震災復興、ジオパーク、絵手紙など一同で堪能できる商店街

3 ソフト事業

- ① R117号の通過客の誘導を道の駅と連携しながら、商店街に誘導策を構築する。歩いて楽しい商店街、森駅前空間を提供する。
- ② 震災復興パネル、ジオサイトの紹介、信越トレイルや里山歩き、絵手紙など観光パネルや軒先の土産品展示などで観光客を飽きさせない展示等工夫を凝らす。
- ③ 商店街当店自慢の品を掲げ提供する。
- ④ 村民や来客者の消費を促す仕組みとして商店街消費の広報活動、商店街イベント活動を実施する。
- ⑤ JR飯山線を活用したおいこっとなどイベント列車を歓迎し、交流人口を増やす。
- ⑥ 商店街そのものも観光資源として捉え、SNSなどを使ったPRを積極的に展開する。
- ⑦ 観光ガイドを養成し、村内めぐりの観光ツアーコースの発着点として活用を図る。

4、ハード事業

森宮野原駅前複合施設建設

- 1F 震災復興展示並びに観光案内拠点施設、子育て支援ルーム
- 2F 貸事務所

複合施設「子育て支援ルーム（ママカフェ）仮称」について

目的	子育て支援として、複合施設内に専用の部屋を設け、若いママさん同士の情報交換及び交流を図る
経緯	<p>年間の出生者が数人という状況の中、村内に嫁がれた若いママさんの交流相手は限られてしまう。慣れない環境、知り合いが少ない中での子育ては大変であることから、保健師も乳幼児健診・予防接種など、様々な機会を通じてママ友の紹介・仲介などをしてきたが、村内でママさんたちが気軽に集えるような場所はなかった。</p> <p>そこで、平成 25 年度から診療所 2 階の集団検診室を空いているとき、ママさんたちの交流の場として開放してきた。しかし、集団検診室は使いたくとも空いているときだけしか使えなかったり、壁 1 枚で歯科待合室と仕切られているだけなので、外に声が漏れてしまうなどの問題があった。</p>
内容	<p>村内で子育てをしていくにはママさん同士の交流や情報交換は大切である。そこで、村の子育て支援策として、ママさんたちが気軽に集い、自由に使える専用の施設を整備したい。</p> <p>施設に専用の玄関を設けることで利用するママさんのプライバシーが守られ、気軽に集いやすくなる。また、場所が森宮野原駅前だと広い駐車場と近くに公園もあることから親子で集える環境は整っている。</p> <p>自由で気軽に使える施設であることはもちろんだが、この施設を会場に子育て教室や相談会等を開催することで、新たな利用者が増え、利用の促進につながると思われる。</p>